

## 若かったらここを登りたい-高所アルパインクライミングの課題

OWCC 中川和道 20240418

「山は逃げない」なんて、大ウソだ。玉木哲広さん[1]がおっしゃるとおり、「山は逃げる」。アルパインクライミングを本格的に始めた1980年頃、中川はダイヤモンドクーロアールに憧れていた。赤道直下ケニア山5199mの頂上にまっすぐ続く真っ白な氷のクーロアールだ、と聞かされていた。単純な中川は、単純に憧れた。必ず登ると決めたのである。社会の位置を手に入れた。さあ、行くぞ、と思った1995年には、何と、温暖化のために完全に消滅していた。夢が、それこそ、がらがらと音を立てて崩れた。山が、逃げた。

人生に研究者の道を選んだのだから仕方ないのだが、結局、登り残した山々は多い。プルビチャチュ初登頂42周年記念集会[2]で紹介されたとおり、課題はまだまだ残っているのに・・・である。例えば・・・

写真1は、テンシャンのハン・テングリ峰。氷河(4000m)から山頂7010mに一気に突き上げるのが「大理石稜ルート」。日本人未踏だ。ラインがいい、名前がいい。この山は海底の石灰岩が熱変性を受けてピンク色の大理石。氷河に四方を削られて、マッターホルンのような威容だ。夕日に染まるその姿を見て、こんな山がこの世に本当にあるのかと感極まった。統合初級アルパインリーダー学校をあと15年早く始めていたら、トライしたかも知れない。若い人、ぜひ、トライしてほしい。成功したら、ぜひ、飲もう！

写真2は、西ネパール フムラ地区の無名峰6010m。名前さえ、まだ、ない。2017年に労山大阪・兵庫50周年記念ヒマラヤ登山隊(大杖哲司隊長)が登頂を果た

せなかった山で、中川もほぼベースまで行った[3]。高度なクライミングテクニックと馬力を要求される。頂上部には高さ40mほどの垂直の岩壁の帯が行く手を阻む。Tikaさんは「ナダれるぞ、危ない山だ」とおっしゃった。でも、うまく登ったら、恋人や連れ合い、子どもの名前をつけてはどうだろう？近藤和美さんと登ったコルジェネフスカヤ峰7105mは娘の名前だったから。

中川は、トレッキングに行く気には、まだ、なれない。もう登れないくせに、悔しがり、あきらめが悪く、欲深い、矛盾だらけの自分が見えるからだ。それも、はっきりと。あーあ。

[1]玉木哲広「山は逃げる」、『山の雑学百科「岳人」編』、東京新聞、2013年、50ページ。

[2]大阪労山ニュース2024年2月号。

[3]労山大阪・兵庫50周年記念ヒマラヤ登山隊『Nyalu Lekの未踏峰 西北ネパール・フムラ2017』。



写真1. ハン・テングリ峰 7010m



写真2. ニャルレクの無名峰 6010m。